

## 教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	帯広畜産大学	申請分野(系)	理工農系
教育プログラムの名称	食の安全性確保の国際標準化による実践教育		
主たる研究科・専攻名	畜産学研究科畜産衛生学専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取 組 実 施 担 当 者	(代表者) 金山 紀久		

### [教育プログラムの概要]

帯広畜産大学大学院畜産学研究科の畜産衛生学専攻は、平成14年～18年度の「21世紀COE(生命科学)」を基盤とした「食の安全確保」に係る基礎・応用研究を推進してきた教員を中心として、「食の安全」に関わる高度な人材育成を目的として、平成16年4月に畜産衛生学独立専攻(修士課程)が、さらに平成18年4月に博士後期課程が設置され、平成20年度に我が国で初めての15名の「博士(畜産衛生学)」を輩出する予定である。本専攻は、帯広畜産大学の教育研究の理念である「動植物性蛋白質資源の生産向上と食の安全確保」、「畜産衛生学分野に特化した専門店単科大学を志向」、そして「食品安全科学分野の高度専門職業人養成による社会学連携」の3本柱による社会貢献を強力に推進するために、全学挙げて構築した人材育成体制である。我が国では、これまで獣医学系と畜産学系の融合が難しかったために達成できなかった「食の安全確保」に関わる実質化した教育体制を、本学では獣医学と畜産学教員からなる「農場から食卓まで」を横断的に網羅する国際レベルの専門家チームによって、すでに実現化した。

今日、食のグローバル化は急速に進展しており、食の安全確保のためには「国際標準」に基づいた迅速な対応が求められているが、スピーディーに変化する国際状況を掌握・理解し、対応できる人材育成が十分ではないのが実情である。具体的には、食の安全確保のための国際標準化の方向付けや作業に貢献できる人材、国際標準化へ迅速に対応しわが国の水際で活躍できる高度な実務リーダー、さらに、途上国における食の安全確保のための国際標準を教育、普及する人材の育成が急務となっている。

ここで用いられる「国際標準」とは、「食の安全性確保」のために国際社会において求められる標準的科学技術水準、制度的水準と定義される。具体的には、農場から食卓までの「食の安全性確保」のための標準的な「リスク分析」に基づく家畜・食品の衛生管理技術(HACCP、トレーサビリティ等)、国際的規制(SPS協定等)を内容とするが、必ずしも教育内容として国際標準が確立しているわけではなく、本教育プログラムによって国際的に通用する標準的な教育内容の構築を図る。

本教育プログラムの目的は、畜産衛生学専攻におけるこれまでの実質化した教育を、「食の安全確保」のための「国際標準」に適切かつ迅速に対応できる人材を育成する教育に発展的に改革することである。

博士前期課程におけるプログラムは、畜産衛生学専攻のこれまでの「農場から食卓まで」を横断的に学ぶ教育カリキュラムの中から、食の安全確保のために**国際標準化**が必要とされる講義・実習科目を選定し、教育内容の国際標準化を図ることを内容とする。この科目群については、日本人学生が科目内容を英語によって理解することを目的とし、高い教育効果を得るため、英語で記述された国際標準に対応したテキストの作成と、講義内容の理解を助けるサブ・テキスト(英語キーワード集など)を作成する。特に、教育内容の国際標準化にあたっては、海外連携拠点大学やその他、食の安全確保の教育を推進している海外の大学等において積極的な情報収集を図り、これら大学と連携して標準化の内容を構築する。

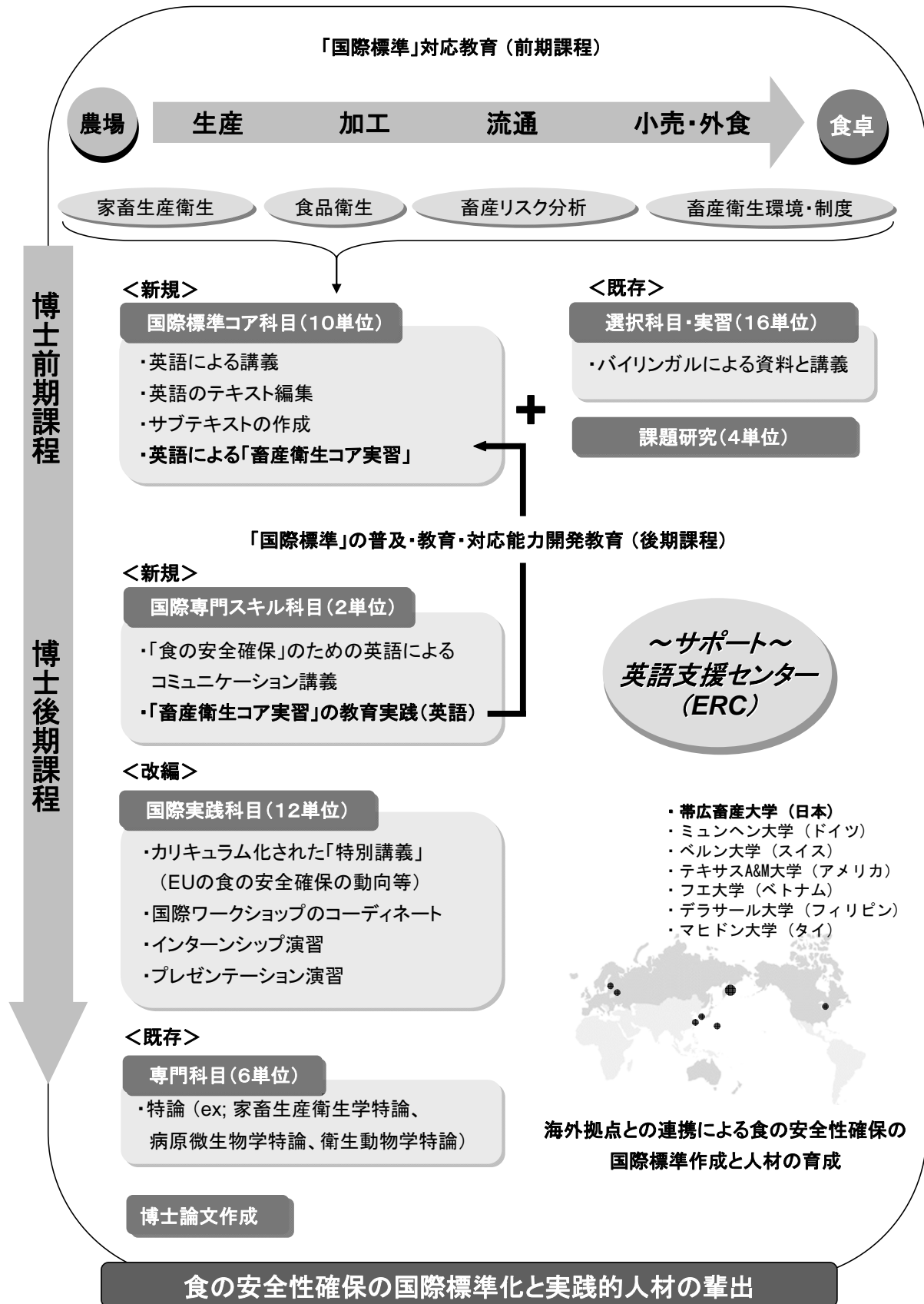
博士後期課程におけるプログラムは、「食の安全確保」に係る国際標準の理解を踏まえ、新たな標準化への対応や標準化された内容の教育、普及の能力を身につけるための国際水準教育に移行することを内容とする。「食の安全確保」に係る教育・普及に必要なコミュニケーション能力を養うディベートを中心とした講義の新設、英語による実習の教育実践、「食の安全確保」に係る国際標準の視点でカリキュラム化された海外講師による対話型特別講義、国際ワークショップの運営による国際的企画力の養成などからなる。

さらにこの教育改革において、本学の語学教員を中心として構成される**英語支援センター(English Resource Center: ERC)**を設置し、本教育プログラムにおける、「食の安全確保」のための国際標準に対応する英語による教育の実施のための、担当教員のFDを含めた支援を行う。

本教育プログラムを実施することによって、急速に変化する食の安全に関する国際状況を的確に把握・理解し、食の安全確保のための「国際標準」に適切かつ迅速に対応できる人材育成を目指す。

履修プロセスの概念図 (履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)

# 食の安全性確保の国際標準化による実践教育 (畜産衛生学専攻)



<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、「食の安全」に関わる高度な人材という社会のニーズに対応した人材養成目的が明確に掲げられている。更に、年4セメスター制や講義と実習を一体化した総合型授業を用いた先進的なシステムを採用するなど、体系的な教育課程を編成している点は評価できる。

教育プログラムの内容では、「『国際畜産衛生学』を構築し、国際標準を理解し、トレーニングを受けた高度で実践的な人材育成」という目的を具現化するため、英語支援センターの設置や国際標準化された英語教科書作成の取組が計画されている点は高く評価できる。ただし、英語力の強化に留まらず、食の安全確保の専門家の養成システムとして、より一層コースワークの内容を具体化し、充実させることが求められる。

これまでの、21世紀COEプログラム、「魅力ある大学院教育」イニシアティブ等の実績から見ても、また本教育プログラムの大学の中での位置付けが明確にされ、全学的な支援が計画されている点から見ても、実現性と今後の発展が大いに期待できる。